永訣の朝

宮沢賢治

内容理解 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1 題名の「永訣」とは、具体的には何を表すのか。詩中の語句を用いて説明しなさい。

2 「おもてはへんにあかるいのだ」（二八九・3）とあるが、外界と比べて何が暗いためにいっそうそう感じられるのか。次の空欄にあてはまる語句を詩中からそれぞれ抜き出しなさい。

臨終を迎えた［①　　］が寝ている［②　　］の雰囲気。

3 「（あめゆじゆとてちてけんじや）」（二八九・4／二八九・7／二九〇・2／二九〇・12）という言葉が、四回繰り返されている。次の解説にあてはまるものは、それぞれ何回目の言葉か、答えなさい。

(1) ひた走る作者をいっそう急がせるような妹の言葉　［　　］回目

(2) 激しい熱やあえぎの間からもれた妹の言葉　［　　］回目

(3) 作者の決意とともに心にしみ通る妹の言葉　［　　］回目

(4) 作者への最後の願いとして心に響いた妹の言葉　［　　］回目

4 「まがつたてつぽうだまのやうに」（二八九・11）という比喩表現から、作者のどのような様子が読み取れるか、説明しなさい。

5 「沈んでくる」（二九〇・4）とあるが、二八九ページ6行目の「ふつてくる」と、どのように違うか、説明しなさい。

6 「さびしくたまつてゐる」（二九一・3）とは、「みぞれ」の形容である以外に、何を象徴しているのか。次の空欄に適当な語句をそれぞれ書き入れなさい。

最愛の①［　　］に先立たれる作者の②［　　］。

7 「やさしいいもうと」（二九一・8）とは、妹のどのような点を言うのか。次の中から適当なものを**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　苦痛に耐えつつ、暗い病室の中で生き抜こうと努める点。
イ　大人になった今でも、無邪気な願いを持ち続けている点。
ウ　死の間際まで、兄に対する思いやりの気持ちを忘れない点。
エ　自らの幸福よりも、他者の幸福のために人生を捧げた点。

□

8 「(Ora Orade Shitori egumo)」（二九一・13）というローマ字表現の硬い語感は、妹のどのような様子を連想させるか。次の中から適当なものを**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　耐え難い病苦から解放されることを一途に願っている様子。
イ　知らない外国語を聞いたときのようにとまどっている様子。
ウ　兄と別れ、決然と死を受け入れようとするけなげな様子。
エ　自らの死を直観し、心の中の恐れを振り払おうとする様子。

□

9 「あをじろく燃えてゐる」（二九二・2）とあるが、妹の体の状態がわかる語句を詩中から抜き出しなさい。

10 「あんなおそろしいみだれたそらから／このうつくしい雪がきたのだ」（二九二・6〜7）に込められた作者の思いとして適当なものを次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　自らの感性に敬意を表したい。
イ　自然の神秘に敬意を表したい。
ウ　妹の死を清く受け止めたい。
エ　無力さを妹にわびたい。

□

11 「(うまれでくるたて……くるしまなあよにうまれてくる)」（二九二・8〜10）という言葉には、妹のどのような思いが込められているか、説明しなさい。

12 「わたくしはいまこころからいのる」（二九二・12）とあるが、何を祈るのか。適当なものを次から**一つ**選びなさい。

ア　妹の回復　　イ　自らの幸福
ウ　神の慈悲　　エ　妹や多くの人々の幸せ

□

主題理解 **次の問いに答えなさい。**

「わたくしのすべてのさいはひをかけて」（二九二・15）には、作者のどのような思いが込められているか説明しなさい。